

## 平成23年度事業報告書

### 1. ソルフェージュに関する研究及び普及

当法人に付属するソルフェージュスクールにおいて下記の事業を行った。

- (1) 随時ソルフェージュを学びたい者を広く一般に募集して、希望者に対し当法人が研究開発した指導法により指導を行った。  
当法人ではソルフェージュ指導を生涯教育の一環としてとらえており、4歳以上年齢を問わず希望者を受け入れて指導を続けている。
- (2) 一般人に対する指導法の研究  
当法人が開発したソルフェージュジェット（ソルフェージュ指導器具）の改良に関して、関係資料の収集をし、一般への普及版制作について市場分析と実用品となる製作方法等の考察を継続している。
- (3) ソルフェージュを活用して、各種楽器・声楽等の実技指導に当たった。  
とくに単独演奏だけではなく、複数で連弾、合奏、協奏の経験を積むことで、技術の向上だけでなく、人間として成長することに力を注いで指導に当たった。

### 2. ソルフェージュを学ぶ者、研究者及び指導者の助成と養成

- (1) 専門及び一般を問わず音楽を学ぶ者、またこれから学ぶ者（例えば音楽学校の受験生等）、研究者及び指導者のために、練習室・ホールを貸与した。
- (2) ソルフェージュ研究者及び指導者を対象とする研究会を平成23年5月24日と12月7日の2回、勉強会を4月22日、7月5日、9月16日、平成24年1月17日及び3月23日の5回、具体的な試演会を平成24年2月26日の1回、それぞれ開催し、ソルフェージュ教育の実際について勉強を重ねた。

3. ソルフェージュを広く知ってもらうために、ソルフェージュスクール受講生、ソルフェージュ研究者、同指導者及びその他一般人を対象とする公開の研究発表会、講習会、音楽会等を開催した。

#### (1) 研究発表会

ソルフェージュ教育の成果を一般に周知させるため下記の日程により研究発表会を開催した。この発表会は、1.(1)のソルフェージュスクールにおける受講者をモデルにして、ソルフェージュ教育が音楽演奏の基本になるということを示し、あわせて研究者、指導者に対して指導法の指針を再検討させる場として大きな成果を上げ、一般の人への周知も果たした。（入場料は無料）

平成23年 7月 3日 日本橋公会堂 “ソルフェージュスクール演奏会”

平成24年 8月14日 軽井沢ハーモニーハウス “ミニコンサート”

平成23年10月 2日 当法人ホール “前期おさらい会”

平成24年 3月18日 当法人ホール “後期おさらい会”

## (2) 音楽会

ソルフェージュ教育の理念に基づいた演奏によるコンサートを開催した。とくに今年度はソルフェージュ教育を始めてから50年という大きな節目なので、11月の“創立50周年記念演奏会”に全力を注ぎ、当法人のこれまでの音楽教育“ソルフェージュの研究、指導と普及”の成果を披露した。ソルフェージュ関係者のみならず広く一般人から、当法人の創立時以来一貫して続けている音楽教育が見事に浸透し、その成果を発揮していると賞賛の言葉をいただき、当法人のソルフェージュ教育に理解を深めてもらっていることを確信した。

(入場料は有料)

平成23年 4月29日 当法人ホール “春のコンサート”

平成23年11月13日 紀尾井ホール “創立50周年記念演奏会”

平成23年12月18日 当法人ホール “クリスマスコンサート”

## (3) 講習会

- a 当法人ホールにおいて開催予定だった成人のソルフェージュ指導者を対象にした講習会は、特別な行事である創立50周年記念演奏会の準備等で日程及び人員の調整がつかないこと及び同演奏会に講習会の目的を集約できると考えたため来年度以降に延期とした。
- b 8月に軽井沢ハーモニーハウスにて、中学、高校、大学生、一般人を対象に夏期講習会を行い、ミニコンサートを開いてその成果を一般に公開した。(平成23年8月11日～15日 4泊5日)
- c 春休み中にミュージックキャンプを行った。(平成23年4月2日・3日 2日間)
- d 夏期および冬期に初見大会を行った。(平成23年7月18日、12月23日)

\*1. (1)、(3)、2. (2)、3. (1)、(2)、(3) b、c、dの担当講師・演奏者は以下のとおりだった。

大村 多喜子	(ソルフェージュスクール創立者、東京女子大学、ジュリアード音楽院卒)
石田 昌孝	(ソルフェージュスクール創立協力者、北海道大学卒)
糸井 みちよ	(ソルフェージュスクール出身、東京芸術大学卒)
江原 陽子	(ソルフェージュスクール出身、東京芸術大学卒)
大村 明子	(東京芸術大学卒)
込山 今日子	(桐朋学園大学短期大学卒)
妹尾 美紀子	(桐朋学園大学卒)
林 さち子	(ソルフェージュスクール出身、オペリン大学卒業 インディアナ大学大学院修士課程修了)
林 徹也	(ソルフェージュスクール出身、愛知県立芸術大学で学んだ後アメリカ、ドイツに留学 1977～2008年・シュトゥットガルト室内管弦楽団首席ヴィオラ奏者)
古澤 恭子	(桐朋学園大学卒)
古澤 裕治	(桐朋学園大学、ルーアン音楽院卒)
山崎 孝子	(東京音楽大学卒)
横井 彩	(東京音楽大学卒)
吉村 隆子	(ソルフェージュスクール出身、ボストン大学等でジョージ・ナイクルグに師事、ベルリン留学)

< 創立 50 周年記念演奏会ゲスト演奏者 >

ジョセフ・リン	(ジュリアード音楽院、ハーバード大学卒)
亀井由紀子	(ソルフェージュスクール出身、南カリフォルニア大学でヤッシャ・ハイフェッツに師事)
坪田みつる	(ソルフェージュスクール出身、マンネス音楽院卒)
西原匡紀	(東京教育大学、東京芸術大学卒)
深井李々子	(ソルフェージュスクール出身、国立音楽大学、ニース音楽院卒)
小瀧綾	(東京音楽大学卒)
加藤仁礼	(東京音楽大学卒)
小山祐生	(東京音楽大学、上野学園大学卒)

4. ソルフェージュの振興に寄与した者の顕彰及び助成基金設立について検討したが、結論に至らず、次年度も継続して検討を続けることとなった。

5. ソルフェージュに関する国際交流

創立 50 周年記念演奏会の準備及び本番を通して、当法人が研究中のソルフェージュ指導法について、海外の専門家と情報を交換することができ、ソルフェージュ関係者及びその他一般人にその成果を公開することができた。

6. 音楽に関する資料の収集及び出版物の刊行

(1) 機関誌“ソルフェージュスクール新聞”を 500 部発行し関係者へ配布した。

(2) ソルフェージュ関係図書として下記の楽譜を購入整備した。

- ・ Ernesto Köhler : 15 leichte Übungsgestücke Op,33 Heft I  
(ケーラー フルート第 1 巻 校訂・解説 植村泰一 シンフォニア)
- ・ Ernesto Köhler : 15 leichte Übungsgestücke Op,33 Heft II  
(ケーラー フルート第 2 巻 分析・解釈・練習法/校訂・解説 植村泰一 シンフォニア)
- ・ 「うたう名曲ソルフェージュ 1001 曲伴奏付」楽しい導入編/新井賢治・松本清共著 2 冊
- ・ Alessandro Rolla : Notturmo Es-Dur für zwei Violinen und Viola
- ・ Kóscak YAMADA : Piano Quintet Hochzeitsklänge  
/Directed by Japan Music Drama Society  
Edited by Yoshiyasu Hisamatsu, Craftone Inc.© KYC:009  
(山田耕筰 ピアノ 5 重奏曲<婚姻の響き> 監修/社団法人日本楽劇協会)

(3) ソルフェージュ指導楽譜の発行

マリー・シャスバン版ソルフェージュ教則本を 30 部発行した。

7. 講演会

(1) 合奏及び室内楽演奏法に関する講演会については、創立 50 周年記念演奏会に集約させた。

## 8. その他、目的を達成するために必要な事業

- (1) 当法人の音楽教育“ソルフェージュの研究、指導と普及”について、更に多くの一般の人たちに広めていくために、創立50周年記念の小冊子を3000部作成し、創立50周年記念演奏会を皮切りに日常的に配布を開始した。  
また、創立50周年記念演奏会の模様を収めたDVD、CD等を制作し、前記と同じ目的のために配布を開始した。
- (2) ホームページの構成を一新させ、更なる内容の充実と広範囲への広報強化を図るために、間断なく更新作業を継続している。
- (3) 1977年創刊し1989年まで発行継続した機関誌「ソルフェージュ音楽」(1~29号)について、貴重な記述内容の復刻版作製のため、特集したテーマ毎に文書をまとめる作業・再編集を継続している。

### < 報 告 >

当法人は、平成23年10月31日付で公益法人移行認定申請を行い、平成24年3月21日付で公益財団法人の認定を受け、同年4月1日付で移行登記を完了した。

移行と同時に、<財団法人日本ソルフェージュ振興会>の名称を<公益財団法人ソルフェージュスクール>に改め、当公益財団法人は、これまでの事業内容を引き継ぎながら、これまで以上にソルフェージュに対する一般の理解を深めると共にソルフェージュによる音楽指導及びその普及を行い、もってわが国の音楽文化の発展に寄与する事を目的とする公益事業の運営を強化し、発展させていく所存である。